

平成 29 年(2017 年)度事業計画
(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

平成 29 年度も財政的に厳しい状況が継続すると認識し、引き続き会員の拡大や各種イベントへの参加増など収入増に注力しつつ、会員へのサービス向上に努めていく。

特に、本年度は改革に向け下記の 4 点の活動を重点的に進める。

◎学会活動のポイント

- 1) 理事会主導による学会横断的な改革の推進
 - ・副会長担務の明確化
 - ・理事会決定事項の実行責任・過程の見える化
 - ・委員会相互の連携による会員が参加し易い学会活動の推進
- 2) 新分野創出を担う専門研究会の活動の周知
 - ・学会誌への論文投稿の推進
 - ・学術講演会でのセッションの設置
- 3) 学術講演会の公募シンポジウムを充実
 - ・幅広い視点から議論できる場の醸成
- 4) 電子媒体による情報発信の充実
 - ホームページ、Facebook、メールマガジンなどによる情報発信

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催（定款 4 条 1 号）

1. 1 学術講演会

磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に 1 回開催する。

本年度は、平成 29 年 9 月 19 日（火）から 22 日（金）まで、九州大学（福岡県福岡市）において第 41 回日本磁気学会学術講演会を開催する。本年度の学術講演会は、これまでと同様に国内外の新しい磁気に関する研究成果をもれなく集め、約 80 セッションを設け、約 500 篇の講演論文を集めて行う予定。学会活性化のための施策として、ランチセミナーや、女性研究者の人脈形成のための交流会の実施も併せて行う予定である。

1. 1 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

第 41 回日本磁気学会学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制とする。これにより会員の議論のさらなる活性化を図る。

1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

第 41 回日本磁気学会学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いによって講演を認めることにより投稿数が増加することが期待できる。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

第 41 回日本磁気学会学術講演会の概要集をウェブ配信化する。並行して、概要集を従来の冊子の形式でも別料金にて事前受付をし、従来のサービスも一部継続する。これらにより会員の便性向上を図る。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員のウェブ登録の実施

第 41 回日本磁気学会学術講演会においても、学術講演会ホームページから賛助会員も事前登録を行えるようにする。賛助会員のウェブ登録の実施は、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加が期待される。

1. 2 研究会

新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年に 5 回を目安として定期的に開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題（仮題）
第 213 回	平成 29 年 6 月	エネルギーマグネティクス・磁気センサ
第 214 回	平成 29 年 7 月	強磁場応用
第 215 回	平成 29 年 11 月	化合物磁性
第 216 回	平成 30 年 1 月	スピントロニクス
第 217 回	平成 30 年 3 月	熱電変換材料

1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 「日本磁気学会初等磁気工学講座」と「日本磁気学会サマースクール」を、学術講演会とは別に 6 月に開催する。日本磁気学会初等磁気工学講座は 6 月 6 日（火）に、日本磁気学会サマースクールは 6 月 7 日（水）～ 6 月 9 日（金）に中央大学駿河台記念館で開催する。東京開催にすることで、昨年よりも参加人数の増加が期待できる。
- ・ 青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を年 2 回程度開催する。

1. 4 専門研究会

ナノマグネティクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、スピントロニクス専門研究会、強磁場応用専門研究会をそれぞれ年数回開催する。

1. 5 岩崎コンファレンス

磁気センサをテーマとして第 5 回岩崎コンファレンスを 11 月から 12 月を目途に 2 日間の日程で開催する。

2. 学会誌その他の図書の刊行（定款 4 条 2 号）

2. 1 学会誌および学会報の発行

平成 29 年度内に、学会誌「Journal of the Magnetics Society of Japan」を、Vol.41, No.3（通巻第 286 号）から Vol.42, No.2（通巻第 291 号）まで隔月で年度内 6 回発行する他、学会報「まぐね」を Vol.12, No.2（通巻第 99 号）より Vol.13, No.1（通巻第 104 号）まで隔月で年度内 6 回発行する。「Journal of the Magnetics Society of Japan」は英語の原著論文、レビュー論文等磁気の研究を掲載する。今年度から学術講演会での発表を前提とした論文誌「Transactions of the Magnetics Society of Japan (Special Issues)」を年 1～2 回発行する。「まぐね」は特集記事を中心に解説、トピックス、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術などを掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。

2. 2 出版活動の推進

企画委員会、編集委員会が連携して総務委員会主導のもと出版 WG を組織し、出版事業を推進する。平成 29 年度は、教科書シリーズ 1 巻、啓発書シリーズ 2 巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

2. 3 Journal of the Magnetism Society of Japan の ISI 取得に向けた取り組み

2020 年に国際会議 IcAUMS が日本で開催される予定であることから、2018 年に Journal of the Magnetism Society of Japan の ISI 申請を目指し、定常的な論文の収集に努めるとともに、レビュー論文、国際会議プロシーディングスを積極的に発行し、活性化をはかる。論文数、引用数を増やすことを目的として以下の取り組みを実施する。

- ・ Review 論文の充実
 - 理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼し、引用を促す。
 - 委員会より依頼した Review 論文には原稿料を支払う。
 - 学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者によるレビュー論文を掲載する。
- ・ 投稿論文の充実
 - 分野ごとの特集を設け、記事を集める。
 - 専門研究会からの投稿を募る。
 - 投稿論文 50 本を目標に理事会の協力をあおぎ論文緊急対策をおこなう。
- ・ 引用数の拡大
 - 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。
 - 大きなイベントにタイミングを合わせた引用依頼を継続する。
 - 2 年以内に発行された論文の著者と指導教員に最低 2 回の引用をおこなうよう個別に依頼する。

2. 4 電子化した「まぐね」「研究会資料」「学術講演会概要集」DVD

学会創設 40 周年を記念して電子化した「まぐね」「研究会資料」「学術講演会概要集」DVD を引き続き販売する。また日本応用磁気学会誌の電子化についても検討・準備を始める。

3. 研究および調査の実施（定款 4 条 3 号）

3. 1 会員サービスの拡大

ホームページの充実のため、英文の再構築、技術情報サービスに連動したバナー広告掲載や Q&A などのコンテンツの充実、利用状況解析による HP 構成の改良を行う。技術情報サービスやメールマガジンの充実、Facebook の活用を図る。

3. 2 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

学術講演会、研究会、専門研究会などにおける学会の広報活動を強化し、パンフレット、ポスターなどによる出版物等の広告と会員入会勧誘を積極的に推進する。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款 4 条 4 号）

本年度は学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞（内山賞）、学生講演賞（桜井講演賞）、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。上記に加えて、今年度から学生向けに MSJ 論文奨励賞を設立し、若い研究者の意欲増強を図る。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款 4 条 5 号）

米国電気電子学会 (IEEE) との National Society Agreement (NSA) 及び IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA) に基づく相互協力を引き続き行う。国内関連学会に加え、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、ロシア磁気学会、中国、英国、ドイツ、フランス等の関連学会団体と相互協力および情報交換を行う。国際化委員会では、Asian Union of Magnetics Societies (AUMS) (日本、韓国、中国、台湾、インド) を母体に、アジアでの協調体制確立に努める。AUMS Council Meeting に参加して、AUMS に関連する議案を審議する。

II 会議

この年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会は次により実施する。

1. 総会

本年度の通常総会は平成 29 年 6 月 6 日 (火) に開催し、平成 28 年度事業報告および収支決算、平成 29 年度事業計画および収支予算などについて審議・議決する。

2. 理事会

本年度の理事会は、原則として 6 回開催し、総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実等について審議する。

3. 顧問会

学術講演会開催時に開催し学会の諸活動に関して会長および理事会に意見を具申する。

4. その他

名誉会員および賛助会員の学会活動に対する意見を集めるため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会をそれぞれ年 1 回開催する。

III 公益法人運営体制の確立について

日本磁気学会の継続的発展を図るために財務体質の改善および会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。

本年度の各委員会活動ポイントは下記の通り。

◎活動のポイント

総務委員会：事務効率向上および低コスト化の推進、理事会決定事項の進捗把握と確実な推進

財務委員会：財務状況の逐次把握および健全化の推進

企画委員会：賛助会員を含め会員の参加し易い研究会、学術講演会の開催

編集委員会：学生の論文投稿数の増加、萌芽的論文の積極的採録、学会誌のさらなる国際化

広報委員会：各種媒体による広報活動の充実

国際化委員会：海外学協会との連携強化